



2016年度 天文資料

平成28年度 第12号 (3月号)

平成29年 2月28日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<この春木星に続き土星が見ごろに、また変光星オリオン座U星の光度が極大>

昨年秋より夕方西の空で、ひときわ目を引いた金星が、3月23日には太陽と地球の間に入り込む「内合」となり、中旬以降は肉眼では見えにくくなります。宵の明星ともお別れですが、代わって4月の中ごろ以降は、明けの明星として、朝東の空にその輝かしい姿を見せてくれるでしょう。また、今明け方によく見えている木星に続き、土星も4月以降いよいよ観測の好機を迎えます。

一方、オリオン座の棍棒の先にある「U星」は、変光星として知られていますが、4月の光度極大に向けて明るくなってきています。今回は、この土星と、オリオン座U星について取り上げます。

<明け方南の空で土星が西矩、いよいよ観測シーズン入り>

環のある惑星として人気のある土星、昨年はさそり座の1等星アンタレスの北(上)にあり、8月の末には火星とも接近して大に人目を引きました。今年は、星座の中を少し東に進み、へびつかい座の足元に移っています。

3月17日には、太陽の西側に90° 離れる「西矩」となり、いよいよ観測の好機となります。

今は明け方に東の空に昇りますが、3月の下旬には夜半過ぎには昇り始めます。明るさは0.5等級ですので、その付近で最も明るく輝いています。肉眼でも十分観察できますが、望遠鏡をお持ちの方は、ぜひ土星に向けてみてください。しっかりと開いた環の姿を見ることができるよう。この環は、今年の10月17日に最も大きく開きます。

土星は、直径が地球の約9.5倍、太陽系では木星に次いで

2番目に大きな惑星です。でも、本体は水素とヘリウムでできたガスの惑星、また密度が約0.7g/cm³と小さく、もし土星が入れるくらい大きな海があったら、その海に土星は浮かんでしまいます。



<変光星オリオン座U星の光度が極大>

夕方南東の空に大きく傾いたオリオン座が見えてきますが、その棍棒の先にあるのが、変光星として知られるオリオン座U星。この星は、368.3日周期で4.8等級から13.0等級まで、明るさが変化します。4月中旬には明るさが極大となるので、双眼鏡を使えば、赤く輝く姿を見ることができるよう。なお、この星は、くじら座のミラと同じく、星自体が膨張収縮を繰り返す「脈動変光星」です。変光星はほかに、連星である他の天体が前を横切るために明るさが変化する「食変光星」、星本体の表面の明るさが均等でなく、星の自転によって明るさが変わる「回転変光星」、星の外層や大気の爆発によって明るさが変わる「爆発型変光星」などがあります。

